

流行する性感染症に対する効果的な介入と評価

研究分担者 今村 顕史（東京都立駒込病院）
研究協力者 要 友紀子、宮階 真紀、宮田りりい（SWASH）
佐野 貴子（神奈川県衛生研究所）
土屋 菜歩（東北大学 東北メディカル・メガバンク機構）
堅多 敦子（東京都立駒込病院）

研究要旨

我が国の HIV/AIDS では、その感染経路の多くを性行為による感染が占めている。一方で、近年、国内では、性感染症が増加しており、特に梅毒については、女性は 20 歳代、男性は 20-40 歳代を中心に急増しており、大きな問題となっている。そのため、特に性感染症の正しい知識や情報が届いていない若年層や、性感染症り患のハイリスク層ではあるが、情報にスムーズにアクセスできる環境にない女性のセックスワーカー（SW）に対して、予防行動をとり、検査を受検するような意識を醸成していくことが重要である。従って、このような対象者への受検勧奨と予防啓発を行うことが、喫緊の課題となっている。しかし、現代の性産業は SNS 等の普及とともに多様化し、複数の店舗に従事する女性、他職を持ちながら性産業と関わる女性など、従来の受検勧奨が届かない対象者が増加している。本分担研究では、性感染症に関する啓発を通じて、若年層や女性の SW に対して、性感染症の不安解消、情報提供、注意喚起・受検勧奨を進めるとともに、HIV を含めた性感染症に関する情報を効果的に伝達できる手法、現代型の啓発プログラム開発を検討する。

今年度、性産業従事者への支援団体と協力し、SW 向けポータルサイトのコンテンツを充実し、SW の性の健康への関心を高めるため、セクシャルヘルスにかかる知識・情報等について、SW のインタビュー動画や記事を掲載した。SNS を中心に広報展開し、インフルエンサーからも情報発信してもらうなど、啓発のためのネットワーク構築を進めている。また、若者向けに性感染症・梅毒啓発ページを「HIV 検査・相談マップ」のサイトに、梅毒をわかりやすく解説した梅毒啓発動画とともに掲載している。

今後、知識認知や受検動機につながる現代型の啓発プログラム開発を検討し、その効果については、SNS や関連サイトのアクセス評価、性産業従事者へのアンケート調査、疫学調査等の複数の手法での評価を行っていく。

A. 研究目的

近年、国内では梅毒の増加が続いており、特に若年層および性産業に従事する女性の増加が問題となっている。現代の性産業は SNS の普及とともに多様化してきていることで、性感染症のハイリスク層であるが、正しい知識や情報にスミ

ズにアクセスできる環境にない性産業の従事者および性感染症の正しい知識や情報が届いていない若年層への効果的な受検勧奨と予防啓発が喫緊の課題である。

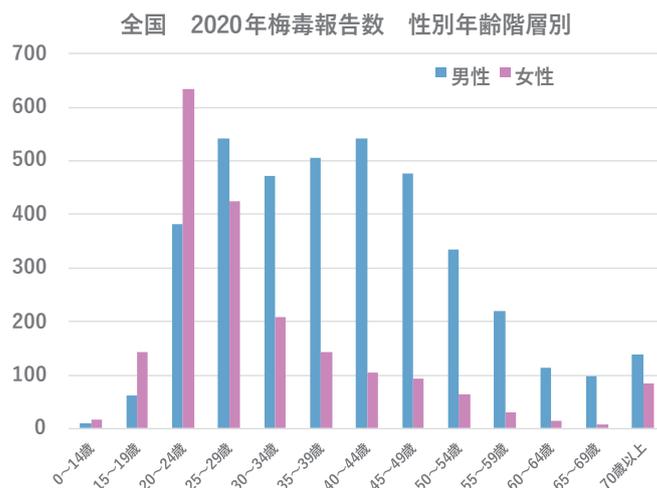
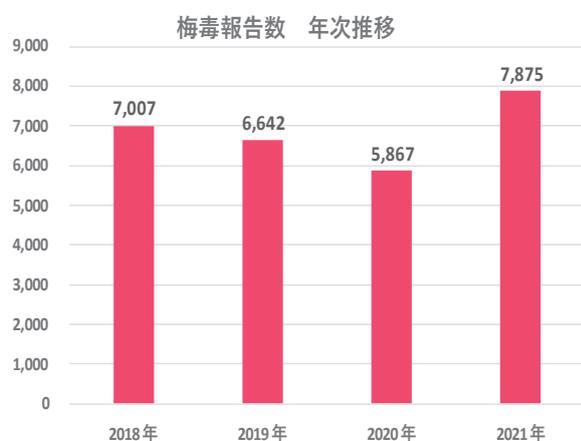
本研究では、性感染症に関する啓発を通じて、若年層や女性の SW に対して、性感染症の不安

解消、情報提供、注意喚起・受検勧奨を進めるとともに、HIV を含めた性感染症に関する情報を効果的に伝達できる手法を検討する。

そして、今後、HIV/AIDS に関する情報や、様々な性感染症の発生動向等を、迅速かつ適切に伝達できる手法を確立し、各分担研究で得られる情報をもとに、梅毒等の性感染症に対する効果的な啓発プログラム開発を目指す。

梅毒の報告数（感染症発生動向年報）2021年（速報値）

2019年、2020年と減少していたが、2021年は過去最多の報告数で、2020年の約34%増であった。2020年、女性の20～24歳の報告数が一番多くなっている。



B. 研究方法

1. SW 向けの啓発

SW 向けの啓発に当たっては、支援団体と連携して対応する。

性産業従事者に影響力のある複数のインフルエンサーと連携し、啓発のためのネットワーク構築を進める。さらに、ホームページ、動画、複数の SNS などを利用した、知識認知や検査受検の動機づけにつながる現代型の啓発プログラム開発を行う。

①SW 向けポータルサイトのコンテンツ作成
サイト「赤い傘」の認知アップを通して、SW の性の健康への関心を高める。

セクシャルヘルスにかかる知識・情報等について、SW のインタビュー動画や記事を掲載し、SNS を中心に広報展開し、インフルエンサーからも情報発信してもらう。

2. 若者向けの啓発

若者世代に対して、流行している梅毒について正しい知識と意識の醸成をはかり、検査受検勧奨につなげるよう啓発資材を作成、発信する。

①性感染症及び梅毒特設ページ等の作成

本研究の研究代表者による「HIV 検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究」で構築した「HIV 検査・相談マップ」のサイトに性感染症及び梅毒の特設ページを作成した。

②梅毒啓発動画の配信

前後編各約 5 分の動画で、若い世代に親和性の高い「You Tuber」スタイルを模したアニメーション及び実写の医師(本研究代表者)との対話スタイルで視聴者に情報提供・注意喚起・受検勧奨を発信し、「HIV 検査・相談マップ」のサイト等に掲載する。

(倫理面への配慮)

本研究においては、個人情報等、倫理に関わる研究内容はなし。

C. 研究結果

1. SW 向けの啓発

①SW 向けポータルサイトのコンテンツ作成

サイト「赤い傘」のコンテンツに、セクシャルヘルスにかかる動画や記事(15 本程度)を充実し、SW の性の健康への関心を高める。

- ・セックスワークコミュニティ関係者・サポーターによるもの、当事者が関わったもの、SWASH メンバーらによるもの各 5 本作成



[赤い傘 \(akaikasa.net\)](http://akaikasa.net)

2. 若者向けの啓発

本研究の研究代表者による「HIV 検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究」で構築した「HIV 検査・相談マップ」のサイトに特設ページを掲載した。

①梅毒特設ページの掲載

「梅毒って、なに？」

- ・若者世代が梅毒について気になる「今、増えている？、梅毒ってどんな病気？どんな症状がでるの？ 治せるの？ 早めの検査が大切。予防できるの？梅毒 Q&A の項目でイラストを多く取り入れ、若者世代に対して、簡潔でわかりやすい内容で作成し、梅毒啓発動画にもアクセスできるようにした。
- ・パソコンとスマートフォンとにアクセスできるように設定した。



[梅毒って、なに? \(hivkensa.com\)](http://hivkensa.com)

梅毒って、なに? ページアクセス数
<https://www.hivkensa.com/syphilis/>

2021年2月24日より公開、Google Analyticsの解析は3月24日より開始



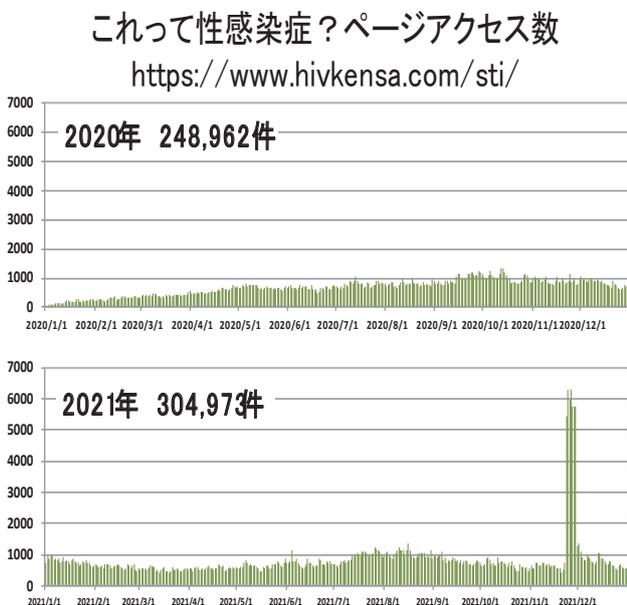
2021年8月から12月末までのアクセス数は、4,946件で12月13日に最多907件のアクセスがあった。

②性感染症特設ページの掲載

- 「これって、性感染症？」
- ・主な性感染症を解説。
- ・症状からどんな性感染症が考えられるか。
- ・病名をクリックすると詳細説明にリンク
- ・性感染症の疑問や心配な事に Q&A で回答



[これって、性感染症？ | HIV 検査・相談マップ \(hivkensa.com\)](https://www.hivkensa.com/sti/)



2020年248,962件、2021年304,973件(11月23日から29日は1日当たり平均5,900件)で、HIV 検査・相談マップの中で一番見られたページであった。

③梅毒啓発動画の掲載

「気になる梅毒、ドクターに聞いてみた。」

前編「今、梅毒が流行中？」

[気になる梅毒！ドクターに聞いてみた #1](#)

[「今、梅毒が流行中？」 - YouTube](#)

後編「もしかして?と思ったら」

[気になる梅毒！ドクターに聞いてみた #2](#)

[「もしかして?と思ったら」 - YouTube](#)

- ・若い世代に親和性の高い「YouTuber」スタイルを模したアニメーションで梅毒に関する話題を「メディチューバー」が発信。実写の医師（本研究代表者）との対話形式で、若者世代の疑問・不安を医師に問いかけ、医師とメディチューバーで受け答えをする構成とした。

D. 考察

近年、国内では、性感染症が増加しており、特に梅毒については、女性は20歳代、男性は20-40歳代を中心に急増しており、大きな問題となっている。

しかし、特に、性感染症の正しい知識や情報が届いていない若者世代や、性感染症り患のハイリスク層ではあるが、情報にスムーズにアクセスできる環境にない女性のSWに対して、予防行動をとり、検査を受検するような意識を醸成していくことが重要である。

本研究では、性感染症に関する啓発を通じて、若年層や女性のSWに対して、性感染症の不安解消、情報提供、注意喚起・受検勧奨を進めるとともに、HIVを含めた性感染症に関する情報を効果的に伝達できる手法を検討する。

今年度は、性産業従事者への支援団体と協力し、SW向けのポータルサイトのコンテンツ充実を図り、影響力のある複数のインフルエンサーが出演する啓発用動画コンテンツも掲載し、インフルエンサーからも情報を発信してもらうなど、啓発のためのネットワーク構築を進めている。また、若者向けに性感染症及び梅毒啓発ページを「HIV 検査・相談マップ」のサイト

に梅毒をわかりやすく解説した啓発動画とともに掲載している。

今後、知識認知や受検動機につながる現代型の啓発プログラム開発を検討し、その効果については、SNS や関連サイトのアクセス評価、性産業従事者へのアンケート調査、疫学調査等の複数の手法での評価を行っていく。

E. 結論

本研究では、正しい知識・情報や受検勧奨について、十分に届いていなかった若年層、女性の SW 等への啓発方法を検討し、多くの人が認知し、理解しやすい多様な対策を講じた。課題となる対象者には、ひとつの方法だけでは HIV・性感染症の受検勧奨が完結することはない。

今後、知識認知や受検動機付けにつながる現代型の啓発プログラム開発を検討し、その効果については、SNS や関連サイトのアクセス評価、性産業従事者へのアンケート調査、疫学調査等の複数の手法での評価を行っていく。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Fukushima K, Yamada Y, Fujiwara S, Tanaka M, Kobayashi K, Yajima K, Tanaka K, Sekiya N, Imamura A. Development of a risk prediction score to identify high-risk groups for the critical coronavirus disease 2019 (COVID-19) in Japan. *Jpn J Infect Dis.* 2021. 74(4):344-351.
- 2) Ikeuchi K, Fukushima K, Tanaka M, Yajima K, Imamura A. Clinical efficacy and tolerability of 1.5 g/day oral amoxicillin therapy without probenecid for the treatment of syphilis. *Sex Transm*

Infect 2021. 0:1-5.

(doi:10.1136/sextrans-2020-054823)

- 3) Saito R, Imamura A, Nishiura H. Assessing countermeasures during a hepatitis A virus outbreak among men who have sex with men. *Theor Biol Med Model* 2021. 18:19 (doi.org/10.1186/s12976-021-00150-1)
- 4) Nakamura S, Kanemasa Y, Atsuta Y, Fujiwara S, Tanaka M, Kazuaki Fukushima K, Kobayashi T, Shimoyama T, Omuro Y, Sekiya N, Imamura A. Characteristics and outcomes of coronavirus disease 2019 (COVID-19) patients with cancer: a single-center retrospective observational study in Tokyo, Japan. *International Journal of Clinical Oncology* 2021. 26:485-493. (doi.org/10.1007/s10147-020-01837-0)
- 5) 今村顕史. 特集 COVID-19 臨床像 : 感染症内科の立場から. *日内会誌* 2020;109:2284-89.
- 6) 増田剛太, 今村顕史, 関谷紀貴. 間接赤血球凝集反応を用いた赤痢アメーバ感染症の血清診断. *感染症誌* 2020. 94: 102~108
- 7) Yuri Echigoya, Takayuki Yamaguchi, Akifumi Imamura, Hiroshi Nishiura. Estimating the syphilis incidence and diagnosis rate in Japan: a mathematical modelling study. *Sex Transm Infect.* 2020 Nov;96(7):516-520.
- 8) Kazuki Shimizu, Hiroshi Nishiura, Akifumi Imamura. Investigation of the Proportion of Diagnosed People Living with HIV/AIDS among Foreign Residents in Japan. *J. Clin. Med.* 2019, 8(6). 804.
- 9) 今村顕史. HIV/AIDS の医療体制とその問題点. *呼吸器内科* 2019. 36(5): 490-493.

- 10) 笠松亜由、福島一彰、今村顕史.梅毒感染症専門医の視点より. 腎と透析 2019. 86(1): 399-402.
- 11) 田中勝、今村顕史. HIVと悪性腫瘍. 新薬と臨床 2019. 31(1): 121-124.

2.学会発表（口頭）

- 1) 今村顕史、生島嗣 岩橋恒太、本間隆之、渡邊珠代、彼谷裕康、鄭瑞雄、堅多敦子
郵送 HIV 検査実施のための web サイトの開発と北陸における実証研究 日本エイズ学会 2021 年, 東京
- 2) 今村顕史.MSM における A 型肝炎の流行への対策と効果についての検討 日本エイズ学会 2019 年熊本

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし